



## 2025年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年8月9日

上場会社名 三相電機株式会社

上場取引所 東

コード番号 6518 URL <https://www.sanso-elec.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 黒田 直樹

問合せ先責任者 (役職名) 取締役統括管理部長 (氏名) 榮永 悟

TEL 079-266-1200

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第1四半期の連結業績(2024年4月1日～2024年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	3,612	22.8	66		51		54	
2024年3月期第1四半期	4,679	4.7	298	21.1	361	21.8	246	11.2

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 97百万円 ( 68.7%) 2024年3月期第1四半期 309百万円 ( 4.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	11.90	
2024年3月期第1四半期	54.40	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	19,196	11,689	60.9
2024年3月期	19,533	11,715	60.0

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 11,689百万円 2024年3月期 11,715百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期		0.00		27.00	27.00
2025年3月期(予想)		0.00		25.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	7,700	17.7	80	84.7	40	93.4	10	97.7	2.20
通期	16,100	8.9	310	54.3	250	68.6	150	69.6	32.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期1Q	4,650,500 株	2024年3月期	4,650,500 株
期末自己株式数	2025年3月期1Q	101,147 株	2024年3月期	101,147 株
期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期1Q	4,549,353 株	2024年3月期1Q	4,536,053 株

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 有(任意)

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料2ページの「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は、当社ウェブサイトに掲載することとしております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

[期中レビュー報告書]

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費が緩やかに持ち直すなど、景気は回復基調となりました。一方で、中東やウクライナにおける紛争の長期化、中国経済の先行き懸念、エネルギー価格や原材料価格の高騰等による影響により、依然として先行きが不透明な状況が続いています。

当社グループにおきましては、半導体業界は、AI関連を中心にメモリや一部のロジック製品の需要は拡大しているものの、企業の半導体設備投資への抑制から需要の低迷が続いています。加えて、セットメーカーでは部品在庫の調整を行っており、当社製品である半導体製造装置用ポンプの受注に影響を与えました。先行きの不透明感から回復時期は見通し難い状況であるものの、中長期的にはAI関連が引き続きけん引するほか、環境対応や自動化などの成長領域を念頭に、半導体市場全体として成長が期待されています。

また、産業機械業界は、世界的な金利上昇や中国景況感悪化を背景に企業の設備投資の減少や生産調整により、産業機械用モータの受注は低調に推移しました。

一方、事業環境の変化に対応すべく販売価格の見直しや原価低減に努めてまいりました。

しかしながら、半導体製造装置用ポンプの販売減少要因が大きく、当第1四半期連結累計期間の売上高は36億12百万円（前年同期比77.2%）となり、営業損失は66百万円（前年同期は営業利益2億98百万円）、経常損失は51百万円（前年同期は経常利益3億61百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は54百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益2億46百万円）となりました。

### (2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末と比べ3億36百万円減少し、191億96百万円となりました。主な内訳として商品及び製品が増加したものの、現金及び預金、受取手形及び売掛金が減少したことによるものであります。負債は前連結会計年度末と比べ3億10百万円減少し、75億7百万円となりました。主な内訳として電子記録債務、借入金が増加したことによるものであります。純資産は前連結会計年度末と比べ25百万円減少し、116億89百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定が増加したものの、利益剰余金が減少したことによるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の連結業績予想につきましては、2024年5月9日の決算短信発表時に公表いたしました業績予想から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,958,796	4,834,495
受取手形及び売掛金	2,987,687	2,565,450
電子記録債権	2,375,046	2,429,170
商品及び製品	609,529	793,289
仕掛品	1,322,182	1,332,957
原材料及び貯蔵品	396,815	377,219
その他	175,102	157,411
貸倒引当金	△1,000	△1,000
流動資産合計	12,824,161	12,488,995
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,168,219	2,163,074
機械装置及び運搬具（純額）	685,237	658,526
工具、器具及び備品（純額）	434,453	440,567
土地	945,996	945,996
リース資産（純額）	627,156	611,408
建設仮勘定	79,161	85,800
有形固定資産合計	4,940,225	4,905,374
無形固定資産		
その他	99,768	99,787
無形固定資産合計	99,768	99,787
投資その他の資産		
投資有価証券	1,158,204	1,161,699
繰延税金資産	275,606	306,826
その他	235,340	233,997
投資その他の資産合計	1,669,151	1,702,523
固定資産合計	6,709,144	6,707,685
資産合計	19,533,305	19,196,680

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	908,019	916,448
電子記録債務	1,583,820	1,519,332
短期借入金	402,391	402,391
1年内返済予定の長期借入金	539,968	529,968
未払費用	446,990	635,544
未払法人税等	76,661	61,122
その他	1,104,012	836,158
流動負債合計	5,061,864	4,900,967
固定負債		
長期借入金	1,055,093	922,601
リース債務	492,309	470,248
退職給付に係る負債	1,180,894	1,186,047
負ののれん	6,457	5,919
その他	21,350	21,350
固定負債合計	2,756,104	2,606,165
負債合計	7,817,969	7,507,133
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	908,918	908,918
資本剰余金	1,863,215	1,863,215
利益剰余金	8,338,371	8,161,416
自己株式	△79,134	△79,134
株主資本合計	11,031,371	10,854,416
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	201,318	232,658
為替換算調整勘定	501,673	620,955
退職給付に係る調整累計額	△19,027	△18,482
その他の包括利益累計額合計	683,964	835,131
純資産合計	11,715,336	11,689,547
負債純資産合計	19,533,305	19,196,680

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	4,679,538	3,612,388
売上原価	3,727,418	3,031,829
売上総利益	952,120	580,559
販売費及び一般管理費	654,112	647,150
営業利益又は営業損失(△)	298,007	△66,591
営業外収益		
受取利息	3,050	903
受取配当金	7,383	9,239
為替差益	37,341	—
投資有価証券評価益	7,761	6
投資有価証券売却益	1,434	4,475
負ののれん償却額	538	538
不動産賃貸料	11,015	18,838
売電収入	2,672	1,954
その他	2,420	1,906
営業外収益合計	73,618	37,862
営業外費用		
支払利息	3,209	3,028
為替差損	—	11,472
不動産賃貸費用	6,112	7,570
売電費用	765	756
その他	392	427
営業外費用合計	10,479	23,255
経常利益又は経常損失(△)	361,146	△51,983
特別利益		
固定資産売却益	—	3,729
特別利益合計	—	3,729
特別損失		
固定資産除却損	7,668	271
特別損失合計	7,668	271
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	353,477	△48,525
法人税、住民税及び事業税	144,660	50,443
法人税等調整額	△37,939	△44,846
法人税等合計	106,720	5,597
四半期純利益又は四半期純損失(△)	246,757	△54,122
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	246,757	△54,122

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	246,757	△54,122
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	57,848	31,340
繰延ヘッジ損益	△18,467	—
為替換算調整勘定	22,874	119,281
退職給付に係る調整額	551	544
その他の包括利益合計	62,806	151,166
四半期包括利益	309,563	97,043
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	309,563	97,043



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自2023年4月1日 至2023年6月30日）および当第1四半期連結累計期間（自2024年4月1日 至2024年6月30日）

当社グループは、モータおよびポンプ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）および負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	191,390千円	204,167千円
負ののれんの償却額	△538	△538

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2024年8月8日

三相電機株式会社  
取締役会 御中仰星監査法人  
大阪事務所指定社員  
業務執行社員 公認会計士 許 仁九指定社員  
業務執行社員 公認会計士 川勝 充樹

## 監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている三相電機株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2024年4月1日から2024年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2024年4月1日から2024年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。  
2. XBR Lデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。